

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和3年6月18日 ～ 令和4年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 《委託研究Ⅵ：その他夜間中学における教育活動充実に関する こと》</p> <p>ア. 高齢者や外国人向けのカリキュラム開発 イ. 他市町村の夜間学級や域内の中学校、近隣の定時制高校との 連携 ク. ICTを活用した生徒の学習活動の支援について</p>
調査研究のねらい	<p>在籍者数62名のうち、日本人が3名となり、夜間学級の役割が 大きく変わってきている。日本に仕事を求める外国人が増加する に伴い、夜間学級における外国人の在籍者数も増えている。今後 の共生社会の形成のため、互いに置かれた立場を考え、地域社会 の中で理解し、認め合っていかなければならない時期が来ている。</p> <p>そこで、就労しながら学習を続けている生徒たちの努力や夜間 学級の現状等を広く周知し、生徒のエンパワメントに繋がる取組 みを推進したい。</p> <p>①国籍、年齢、学習経験等、多様な生徒に対応できる教育課程や 学習指導法を調査研究する。</p> <p>②生徒の持つ文化的背景（特に宗教、言語など）を知ることは指 導上必須なので、研修・研究を充実させ、教職員の資質向上を図 る。</p> <p>③生徒同士や生徒と教員間の相互理解を深めるため、学習指導だ けでなく、様々な学校行事を行う。特に、異なる文化的背景をお 互い理解し合えるような行事の実施を推進する。さらに、どのよ うな行事の内容が適切かについて、調査研究を行う。</p> <p>④夜間学級の認知度等に関するアンケートを実施する。</p> <p>⑤高齢者が、一人1台配布されるICT機器を積極的に活用でき る指導方法を研究する。</p>
調査研究の成果	<p>本年度も在籍生徒の国籍は多様(16ヵ国)で、外国籍生徒が86% を占めている。それとともに、非英語圏、非漢字圏の生徒が増加 し、個々の学習経験や能力に応じてよりきめ細かく指導を行う必 要性が高まった。そのため、学習を進める前に個人の課題や目標 を明確化し、本校で独自に設置している「コース」ごとに、可能 な限り少人数指導ができる体制作りをし、生徒の学習ニーズに対</p>

応できるようにした。

また、生徒指導部主催の情報交換会を毎月実施し、生徒の出席状況、家庭や仕事の状況等をより細かく報告し合い、連携と共有を重視した。

具体的な調査研究の内容と成果は以下の通り。

#### ○学習指導の充実

整備された1人1台学習者用端末の使用を授業に取り入れることで、生徒の興味関心をより高めることができた。また、情報教育主担者とICT支援員による教職員対象研修を行うことにより、まずは授業の中でのICTの利活用促進に資することができた。

#### ○校内連携による指導の充実

・ JLPT(日本語能力試験) N3の受験を希望する生徒に対しては、始業前に登校させて学習に取り組んだ。長期休業中には学習会を設定し、教科学習の充実に努めた。また、大阪府教育庁から配置された日本語指導支援員が学習の進捗状況を教職員と共有することにより、より連携して指導を行うことができた。さらに、日本語指導支援員が教材を紹介するなどして、教職員全体の指導力向上を図ることができた。

・ 研究部主催の研究委員会を毎月実施し、コースごと、生徒一人ひとりの国語(日本語)指導状況や習熟度を確認し、共有するように努めた。また、具体的な使用教材の情報も共有することができた。

#### ○公開授業等による夜間学級の周知

・ 今年度は授業参観を2回行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。そこで、10月に公開授業期間(10/26・27)を設定し、市域小中学校の教職員に案内、25名の参加があった。夜間学級の存在と実情の周知、また潜在的な入学希望者(対象者)を掘り起こす広報活動の一環としても有意義であった。公開授業については日数や回数を増やして、今後実施する予定としている。

・ 外国人への日本語指導に関して、以前から連携している市国際親善協会広報部の取材を受け、協会だより「にゅ〜とぴあ岸和田」に夜間学級特集記事を2回掲載、地域への周知に役立った。今後も協会との連携を強化していきたい。

#### ○人権教育の推進

教職員をA・Bの2チームに分け、年間2回の研究授業を実施

した。

・ 9月22日、「障がい者理解を通して誰もが幸せに生きることの大切さを学ぼう」を主題として、Aチームが授業実践。

オリンピック・パラリンピックを導入に用い、デフリンピックについて紹介。映像や写真、イラストなど視覚に訴える資料提示を積極的に行いながら、挨拶や歌の手話体験を盛り込む等、日本語の理解が十分でない生徒にも伝わるような工夫を実践した。しかし、難解な語句や重要な箇所は多言語で提示したものの、授業のまとめ、振り返りの段階で生徒が考えを深めたり、教職員がそれを理解したりすることが困難で、日本語理解の個人差も大きい生徒たちへの一斉指導に課題が残った。

・ 1月19日、「相手の顔を見て話をしよう」と題して、SNS上の仲間はずれ、トラブルについてBチームが授業実践。

生徒の理解を助けるよう、動画や写真、それを説明する中国語・英語・ペルシャ語・アラビア語・ヒンディー語・タガログ語に翻訳したプリントを使用した。生徒からは、教職員の予想以上に自発的な意見発表があった。しかし、日本人や在日年数の長い生徒が中心で、生徒の日本語理解や発話の能力の個人差が課題となった。また、今回取り上げた題材が比較的若年者向けで、20代から70代と年齢の幅が広い生徒たちへの一斉指導には教材選びにも課題が残った。

今後も、生徒が人権について考える学習を継続していく必要がある。

#### ○教職員研修の充実と指導力向上

・ 8月10日、本校非常勤講師を講師に迎えて、「夜間学校における日本語指導」についての校内研修を実施した。日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校である府立成美高校教諭、日本語教師養成講座修了、公立小中学校での語学指導員といった経験をもとにした内容。校種、生徒の年齢によって日本語指導の目標や重点が異なる上に、夜間学級の場合は個々の生徒の出席率やニーズも様々なことが指導法の確立を難しくしている。そのため、出席状況に応じた色々なシラバスの教材を紹介いただいた。一方で外国人への日本語指導で共通して注意すべき点についてもアドバイスを受けた。「日本語指導」と「国語科教育」、生活言語と学習言語はそれぞれ違うものだということを知った。より質の高い日本語指導ができるよう授業改善していく上で、大

変参考となった。

・ 8月30日、岸和田市国際親善協会の方を講師に迎えて、「国際親善協会における外国人対応と日本語指導の取組み」についての校内研修を実施した。協会の活動の中に、市内5カ所で開設している日本語学習支援の「日本語サロン」や、小中学校への「日本語指導補助員の派遣」があり、いずれも外国人に対して日本語を教えるという点で夜間学級の教育活動と重なる部分があった。日本語サロンで活動する日本語ボランティア養成用のテキスト等の紹介を受けた。日本語指導教材や指導方法(発話をして通じたことの喜びを味わう等)についても多くの助言をいただき、最後に「やさしい日本語」使用の提案も受けた。多文化共生社会実現の一助となる、外国人生徒への指導力向上に役立つ研修となった。

#### ○行事の充実

・ 近畿夜間中学校連合運動会が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、規模を縮小し、校内運動会を実施した。

・ 11月21日、校外学習(神戸市：兵庫県立美術館・人と防災未来センター)を実施した。海と山に囲まれた神戸の地形を体感し、美術品(エジプト展開催中だったため古代エジプトについては多数)を鑑賞し、防災・減災について体験型の学習をすることができた。教室を離れ、平常授業日より長い時間を共有し、生徒同士や生徒と教員間の相互理解を深めることもできた。

・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、例年行っていた料理集会を開催できなかった。

・ 近畿夜間中学校連合作品展の中止に伴い、校内作品展を開催した。本校昼間の生徒や教職員にも見学してもらい、同時にアンケートを実施した。

・ 卒業生を送る会として「お別れ会」を開催し、音楽の授業で取り組んだ各コースの合奏やダンス、有志による歌やダンスを発表し合った。生徒の異なる文化的背景を、相互に理解する場ともなった。

#### ○冊子の作成と活用

学習の総まとめとして、文集「希望」第44号を作成し発刊した。生徒自身の生い立ちや感じていることなどを日本語で表現することにより、これまでの学習の成果の確認と振り返りに資することができた。また、自分の書いた作文を「希望を語る会」で発表することにより、日本語でのスピーチ力向上のみならず、お互

	いを尊重し合う雰囲気醸成することができた。
--	-----------------------